

ミニトマト に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和7年5月1日現在】

<殺菌剤>

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	疫病	灰色 かび病	菌核 病	葉か び病	すす かび病	うどん こ病	輪紋 病	斑点 病	その他 病害虫							
モンカット水和剤									苗立枯病 (リゾクトニア菌)	500~1000倍 (3L/m ²)	は種時~子葉展開時	1回	土壌灌注	フルトラニル	2回以内(但し、種子粉衣は1回以内、土壌灌注は1回以内)	7
										種子重量の0.5~1.0%	は種前	1回	種子粉衣			
ダコニール1000	●	●		●	●	●	●	●	炭疽病、褐色輪紋病	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	TPN	2回以内	M05
アミスターオプティフロアブル	●	●		●	●			●	炭疽病	1000倍 (100~400L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アゾキシストロビン	2回以内	11
														TPN	2回以内	M05
プロポーズ顆粒水和剤	●									1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ベンチアバリカルブイソプロピル	3回以内	40
														TPN	2回以内	M05
ベトファイター顆粒水和剤	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	シモキサニル	3回以内	27
														ベンチアバリカルブイソプロピル	3回以内	40
ダイナモ顆粒水和剤	●									2000~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アミスルブロム	4回以内	21
														シモキサニル	3回以内	27
ランマンフロアブル	●									1000~2000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	シアゾファミド	4回以内	21
リドミル銅水和剤	●									400~600倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	塩基性塩化銅	-	M01
														メタラキシル	4回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は3回以内)	4
レーバスフロアブル	●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	マンジプロパミド	3回以内	40
フルピカフロアブル		●								2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	メパニピリム	4回以内	9

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> ミニトマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫								希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	疫病	灰色 かび病	菌核 病	葉か び病	すす かび病	うどん こ病	輪紋 病	斑点 病							
カンタスドライフロアブル		●	●	●					1000~1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ボスカリド	3回以内	7
トップジンM水和剤		●	●	●					1500~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	チオファネートメチル	6回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)	1
ゲッター水和剤		●	●	●					1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ジェットフェンカルブ	3回以内	10
								チオファネートメチル					6回以内(但し、種子への処理は1回以内、は種後は5回以内)	1	
ベルコート水和剤		●		●					6000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	イミノクタジナルベ シル酸塩	2回以内	M07
サンヨール		●		●				ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類	500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布	DBEDC	4回以内 (殺虫殺菌剤)	M01
					●				500~700倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	4回 以内	散布			
カリグリーン		●		●				さび病	800倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素カリウム	-	NC
					●				800~1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
ハーモメイト水溶剤		●						さび病	800倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布	炭酸水素ナトリウム	-	NC <野菜類該当>
					●				800~1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
ロブラール水和剤		●							1000~1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	イプロジオン	4回以内(但し、種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内)	2
						●	●		1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
			●							200g/10a (5L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	常温煙霧	イプロジオン	4回以内(但し、種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内) <適用場所：温室、ガラス室、ビニールハウス等の密閉できる場所>
トリフミン水和剤				●					3000~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	トリフルミゾール	5回以内	3
					●	●			3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布			
パンチョTF顆粒水和剤					●				2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シフルフェナミド	2回以内	U06
								トリフルミゾール					5回以内	3	

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺菌剤> ミニトマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法等	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	疫病	灰 色 か び 病	菌 核 病	葉 か び 病	す す か び 病	う ど ん こ 病	輪 紋 病	斑 点 病	その他 病害虫							
Zボルドー	●						●			400～600倍 (100～300L/10a)	-	-	散布	塩基性硫酸銅	-	M01
					●					500倍 (100～300L/10a)	-	-	散布			
イオウフロアブル						●				500～1000倍 (100～300L/10a)	発病前～発病初期	-	散布	硫黄	-	F:M02 I:UN (殺虫殺菌剤)
								トマトサビダニ	400倍 (100～300L/10a)	発生初期	-	散布				
リゾレックス水和剤								苗立枯病 (リゾクトニア菌)		500倍 (3L/m ²)	は種時	1回	土壌灌注	トルクロホスメチル	1回	14
バシタック水和剤75								苗立枯病 (リゾクトニア菌)		種子重量の0.4%	は種前	1回	種子粉衣	メプロニル	2回以内(但し、種子への処理は1回以内、土 壌灌注は1回以内)	7
									750～1500倍 (3L/m ²)	は種時～子葉展開時	1回	土壌灌注				
アフエツフロアブル		●	●	●	●		●			2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ペンチオピラド	3回以内	7
						●			2000～4000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
ファンタジスタ顆粒水和剤		●	●	●	●		●			2000～3000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピリベンカルブ	3回以内	11
								立枯病	2000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
ベルコートフロアブル		●		●	●	●	●			4000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	イミノクタジンアルベ シル酸塩	2回以内	M07
プロパティフロアブル						●				3000倍 (100～300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピリオフェノン	2回以内	50
ドイツボルドーA	●			●			●			500倍 (100～300L/10a)	-	-	散布	塩基性塩化銅	-	M01

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

ミニトマト に使用可能な農薬一覧表

銚田市農業振興センター

【令和7年5月1日現在】

<殺虫剤>

薬剤名	対象病害虫										希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブラ ムシ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ	その他 病害虫							
ベストガード粒剤	●	●									5g/培土L	は種時又は鉢上げ時	1回	育苗培土混和	ニテンピラム	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内)	4A
	●	●									1~2g/株	育苗期	1回	株元処理			
	●	●			●						セル成型育苗トレイ1箱または ^ハ ー ^ハ ポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5~4L)あたり50g	育苗期後半	1回	散布			
	●	●									1~2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和			
					●						2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和			
ダントツ粒剤	●	●									1g/株	育苗期	1回	株元処理	クロチアニジン	4回以内(但し、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
			●								1g/株	育苗期後半	1回	株元処理			
	●	●	●		●						1~2g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和			
	●										1~2g/株	定植後 (但し、収穫前日まで)	3回 以内	株元散布			
ダントツ水溶剤	●	●									2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロチアニジン	4回以内(但し、育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
					●						2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
ネマトリンエース粒剤										ネコブセンチュウ	15~20kg/10a	定植前	1回	全面土壌混和	ホスチアゼート	2回以内(但し、定植前の土壌混和は1回以内、土壌灌注は1回以内)	1B
モスピラン粒剤		●									1g/株	定植前日~定植当日	1回	株元散布	アセタミプリド	4回以内(但し、粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
	●	●								トマトハモグリバエ	1g/株	定植時	1回	植穴土壌混和			
	●										0.5g/株	生育期 (但し、収穫前日まで)	3回 以内	株元散布			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> ミニトマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫										希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ	その他 病害虫							
モスピラン水溶剤	●	●	●								2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アセタミプリド	4回以内(但し、粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)	4A
アドマイヤー1粒剤		●									0.5~1g/株	育苗期後半	1回	株元散布	イミダクロプリド	3回以内(但し、育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内)	4A
	●	●									1~2g/株	定植時	1回	植穴土壌混和			
ポタニガードES		●									1000~2000倍 (100~300L/10a)	発生初期	-	散布	ボーベリアバシ アーナGHA	-	UNF (殺虫殺菌剤) <野菜類該当>
	●	●	●						コナガ、ハダニ類	1000倍 (100~300L/10a)	発生初期	-	散布	-			
										うどんこ病	1000倍 (100~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布		-	
アグロスリン水和剤	●										2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	シベルメトリン	2回以内	3A
アディオオン乳剤	●										2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ペルメトリン	4回以内(但し、株元散布は1回以内、散布及び噴射は合計3回以内)	3A
コルト顆粒水和剤	●	●									4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピリフルキナゾン	3回以内	9B
チェス顆粒水和剤	●	●									5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ピメトロジン	4回以内(但し、育苗期の株元散布及び定植時の植穴処理は合計1回以内、散布は3回以内)	9B
バリアード顆粒水和剤	●	●									4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	チアクロプリド	3回以内	4A
ベストガード水溶剤	●	●	●								1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	ニテンピラム	4回以内(但し、定植時までの処理は1回以内、定植後は3回以内)	4A
ウララDF	●										2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	フロニカミド	3回以内	29
		●		●							2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			

※参考資料の作成に当たっては、農業使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農業を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農業の誤った使用を行わないようにしてください。

※農業散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農業が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> ミニトマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード
	ア ブラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ							
アルバリン顆粒水溶剤/ スタークル顆粒水溶剤									カメムシ類	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ジノテフラン	5回以内(但し、培土混和及び灌注は合計1 回以内、育苗期の株元散布は1回以内、定植 時の土壌混和は1回以内、散布及び定植後の 株元散布は合計2回以内)	4A
		●								2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
										セル成型育苗トレイ1箱またはペーパー ポット1冊(30×60cm・使用土壌約 1.5~4.0L)あたり0.5L	鉢上時又は定植時	1回	灌注			
サフオイル乳剤	●								ハダニ類	300~500倍 (100~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布	調合油	-	NC
		●							チャノホコリダニ、う どんこ病	300倍 (100~500L/10a)	収穫前日まで	-	散布			
クリアザールフロアブル		●								2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピロメシフェン	2回以内	23
									●	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
クリアオール水和剤		●		●			●	●		2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アクリナトリン	2回以内	3A
														スピロメシフェン	2回以内	23
アーデント水和剤				●			●			1000倍 (150~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	アクリナトリン	2回以内	3A
マッチ乳剤							●			2000~3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ルフェヌロン	2回以内	15
								●		3000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
		●	●						●	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
アニキ乳剤							●	●	●	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	レピメクチン	3回以内	6
		●		●						1000~2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
										トマトキバガ	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内			

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> ミニトマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード	
	ア ブラ ムシ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ								その他 病害虫
ノーモルト乳剤		●									2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	テフルベンズロン	2回以内 (昆虫成長制御剤)	15
カスケード乳剤		●									4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フルフェノクスロン	2回以内 (昆虫成長制御剤)	15
						●	●				2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
					●					トマトハモグリバエ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布			
コロマイト乳剤		●			●						1500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ミルベメクチン	2回以内	6
プレバソンフロアブル5		●			●					トマトキバガ	100倍 (1株当り25mL)	育苗期後半~定植当日	1回	灌注	クロラントラニリ プロール	4回以内(但し、灌注は1回以内、散布は3回 以内)	28
		●			●						200倍 (1株当り50mL)	育苗期後半~定植当日	1回	灌注			
					●	●				トマトキバガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布			
コテツフロアブル				●		●		●	ナミハダニ、トマトキ バガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロルフェナピル	3回以内	13	
プレオフロアブル					●	●	●		シロイチモジヨトウ、 トマトキバガ	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	ピリダリル	2回以内	UN	
アフアーム乳剤		●			●	●		●	トマトキバガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	5回 以内	散布	エマメクチン安息 香酸塩	5回以内	6	
アタブロン乳剤						●	●		タバココナジラミ類 (シルバーリーフコナ ジラミを含む)	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	クロルフルアズロン	3回以内 (昆虫成長制御剤)	15	
デルフィン顆粒水和剤						●	●		ウリノメイガ、アオム シ、コナガ、シロイチ モジヨトウ	1000倍 (100~300L/10a)	発生初期 (但し、収穫前日まで)	-	散布	B T (生菌)	- <野菜類該当>	11A	
マイトコーネフロアブル								●	ハダニ類	1000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	1回	散布	ビフェナゼート	1回	20D	

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。

<殺虫剤> ミニトマト

【令和7年5月1日現在】

薬剤名	対象病害虫									希釈倍数 使用量 (散布液量)	使用時期	本剤 使用 回数	使用方法	有効成分の種類	同左毎の使用回数 <備考>	分類 コード		
	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	ミ カ ン キ イ ロ	ハ モ グ リ バ エ 類	マ メ ハ モ グ リ バ エ	オ オ タ バ コ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	ト マ ト サ ビ ダ ニ								その他 病害虫	
ベリマークSC	●	●	●		●					トマトキバガ	400株当り25mL 400株当り10~20L (1株当り25~50mL)	育苗期後半~定植当日	1回	灌注	シアントラニリブ ロール	5回以内(定植時までの処理及び定植直後の 株元灌注は合計1回以内、定植後の株元灌注 は1回以内、定植後の散布は3回以内)	28	
		●									400株当り25mL 400株当り20~200L (1株当り50~500mL)	定植直後	1回	株元灌注				
			●									200倍 (#参照)	育苗期後半~定植当日	1回				灌注
			●									10000倍 (1~3L/m ²)	定植14日後まで	1回				株元灌注
ディアナSC		●									2500倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	スピネトラム	2回以内	5	
				●	●	●	●			トマトキバガ	2500~5000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布				
ベネビアOD	●	●	●		●					トマトキバガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	シアントラニリブ ロール	5回以内(但し、定植時までの処理及び定植 直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の株 元灌注は1回以内、定植後の散布は3回以内)	28	
							●				2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布				
モスピラン顆粒水溶剤	●	●	●								2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	3回 以内	散布	アセタミプリド	4回以内(但し、粒剤の定植時までの処理は 1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散 布は合計3回以内)	4A	
フェニックス顆粒水和剤								●	●		2000~4000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布	フルベンジアミド	2回以内	28	
										トマトキバガ	2000倍 (100~300L/10a)	収穫前日まで	2回 以内	散布				
イオウフロアブル									●		400倍 (100~300L/10a)	発生初期	-	散布	硫黄	-	(殺虫殺菌剤)	I:UN F:MO2
										うどんこ病	500~1000倍 (100~300L/10a)	発病前~発病初期	-	散布				

: セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5~4L)当り0.5L

※参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する時は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。

※農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散(ドリフト)しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。

※分類コードは、薬剤の有効成分を作用機構別に分類したものです。異なる数字・記号の薬剤でローテーション防除を心がけてください。